

科目概要

学科名	建築・インテリアデザイン科		
科目コード	2020SD12		
授業科目名	建築計画 I		
授業時間数	30		
必修・選択の別	必修		
対象コース	共通		
開講年次	1年次	開講時期	通年
授業方法	講義		
実務経験のある教員による授業科目	該当する		

シラバス

授業の内容	建築設計業務に携わった経験を持つ教員が、設計を行う上で必要となる基本的な寸法や各部の要点について解説した後、生活の基盤となる住空間から各種建築物にわたる様々な建築物の特徴や計画要点について解説を行う。
到達目標	建築計画の役割、建築設計に必要な基礎知識（寸法、用語、空間の構成等）が理解できること、また建築計画各論では各種建築物に関する基礎知識を修得し、計画手法を身につけることを目標とする。
授業計画	<p>第1回 建築計画について、単位と寸法</p> <p>第2回 計画の進め方、各部の計画（扉、窓、階段等の考え方）</p> <p>第3回 単位空間の計画</p> <p>第4回 住居空間の計画</p> <p>第5回 独立住宅の計画（平面計画と配置計画）</p> <p>第6回 独立住宅の計画（諸室の計画）</p> <p>第7回 独立住宅の計画（平面形式と事例分析）</p> <p>第8回 集合住宅の計画（住棟形式と分類）</p> <p>第9回 集合住宅の計画（計画上の要点）</p> <p>第10回 集合住宅の計画（事例分析）</p> <p>第11回 教育施設の計画（幼稚園・保育所）</p> <p>第12回 教育施設の計画（小・中・高等学校等）</p> <p>第13回 教育施設の計画（教育施設の事例分析）</p> <p>第14回 図書館の計画</p> <p>第15回 美術館の計画</p> <p>第16回 劇場の計画</p> <p>第17回 事務所の計画</p> <p>第18回 ホテル等宿泊施設の計画</p> <p>第19回 病院・診療所の計画</p> <p>第20回 商業建築の計画</p> <p>第21回 高齢者福祉施設等の計画</p> <p>第22回 駐車・駐輪施設等の計画</p> <p>第23回 スポーツ施設等の計画</p> <p>第24回 その他各種建築物の計画</p> <p>第25回 高齢者・障害者に配慮した計画（基本的な考え方と背景）</p> <p>第26回 高齢者・障害者に配慮した計画（計画における留意事項）</p> <p>第27回 環境に配慮した計画（サステナビリティとその背景）</p> <p>第28回 環境に配慮した計画（コンバージョンとリノベーション）</p> <p>第29回 建築計画の総括と今後の展望（複合建築物の事例分析）</p> <p>第30回 建築計画の総括と今後の展望（防災計画）</p>
教科書	図説 やさしい建築計画（学芸出版社）
成績評価方法	期末定期試験(60%)、レポート課題(20%)、授業参加への積極性を重視する平常点(20%)により評価する。
備考	

科目概要

学科名	建築・インテリアデザイン科		
科目コード	2020SD16		
授業科目名	一般構造		
授業時間数	36		
必修・選択の別	必修		
対象コース	共通		
開講年次	1年次	開講時期	中期
授業方法	講義		
実務経験のある教員による授業科目	該当する		

シラバス

授業の内容	現役建築士が、監理業務において担当した実例や現場での経験談を交えながら、3つの主要な構造（木造・鉄筋コンクリート造・鉄骨造）の概要や構成、材料の特徴・特性等について講義する。
到達目標	建築物を成立させている部位の構成や仕組みを理解し、建築を学ぶ上で知っておきたい基礎的な建築技術の概要や構造、架構の知識を習得する。また、建築技術、構造の全体像の把握に加え、建築に携わる人が必要とする建築技術専門用語を理解・習得する。
授業計画	<p>第1回 [建築構法の概要] 建築構法の変遷、構造の分類、エレメントについて学ぶ</p> <p>第2回 [木質構法] 木質構法の特徴 各工法の特徴を学び、各種図面を理解する</p> <p>第3回 [木質構法] 木材 木材の組織と性質、製材規格、木質材料について学ぶ</p> <p>第4回 [木質構法] 軸組工法の構成1 基礎・軸組・小屋組・壁について学ぶ</p> <p>第5回 [木質構法] 軸組工法の構成2 床組・内外装・開口部・建具・階段について学ぶ</p> <p>第6回 [木質構法] 枠組壁工法 枠組壁工法の構成と材料、工程や接合方法について学ぶ</p> <p>第7回 [木質構法] 大断面集成材工法 大断面集成材工法の構成と接合について学ぶ</p> <p>第8回 [鉄筋コンクリート構造] 特徴と材料 構造形式と構造の原理、材料について学ぶ</p> <p>第9回 [鉄筋コンクリート構造] ラーメン構法 ラーメン構造の構成について学ぶ</p> <p>第10回 [鉄筋コンクリート構造] その他の構法 各構造の構成と特徴を学ぶ</p> <p>第11回 [鉄骨構造] 特徴と材料 構造形式と特徴、材料と接合方法について学ぶ</p> <p>第12回 [鉄骨構造] 架構・建方 架構の構成と建方の流れについて学ぶ</p>
教科書	[図解] 建築の構造と構法 <井上書院>
成績評価方法	定期試験(80%)及び授業参加への積極性を重視する平常点(20%)により評価する
備考	

科目概要

学科名	建築・インテリアデザイン科		
科目コード	2020SD17		
授業科目名	建築材料学		
授業時間数	30		
必修・選択の別	必修		
対象コース	共通		
開講年次	1年次	開講時期	通年
授業方法	講義		
実務経験のある教員による授業科目	該当する		

シラバス

授業の内容	建築設計事務所に勤務し、建築設計、コーディネートの実務経験をもつ教員が建築材料の歴史や概要を解説、また材料の特徴、特性について講義し、その使われ方、用途等を建築現場経験を基に解説する。
到達目標	建築の設計、空間コーディネートにおいて理解しておかなければならない建築材料と空間部位別仕上げ材などの種類、特徴、性能等について基礎的な知識を身につける。
授業計画	<p>第1回 建築材料の歴史と環境 時代時代につくられ建築に使用されてきた材料の大まかな流れと現代の環境問題について学ぶ。</p> <p>第2～3回 日本建築と木材 日本伝統工法と木材の種類、特徴、構造の基礎知識を学ぶ。</p> <p>第4～5回 エンジニアリングウッド 資源の再利用から作り出された加工木材の種類、特徴を学ぶ。</p> <p>第6～7回 コンクリート材料 建築の構造材料としてのコンクリートの原材料それぞれの特徴、性質を学ぶ。</p> <p>第8～10回 コンクリートの性質と製品 コンクリートの性質、耐久性、強度についてと、コンクリート製品の種類と特徴について学ぶ。</p> <p>第11～13回 鉄鋼 鉄の歴史 鉄の建築への使用の歴史、鋼材の特徴、性質、規格について学ぶ。</p> <p>第14～16回 非鉄金属 建築に使われている鉄鋼以外の金属の種類、特徴、性質について学ぶ。</p> <p>第17～19回 焼成品 タイル、レンガ、瓦、衛生陶器の種類、特徴、性質について学ぶ。</p> <p>第20～21回 ガラスと石 ガラスの歴史、製法、特徴、性質と石の分類、特徴について学ぶ。</p> <p>第22～23回 左官材料とボード類 左官の起源と定義、左官材料と仕上げの種類と、木材の板以外のボード類の種類や特徴を学ぶ。</p> <p>第24～25回 その他の材料 新建材 プラスチック材料の種類、特徴と塗料、接着剤の種類について学ぶ。</p> <p>第26～28回 部位別材料 内部仕上げの床・壁・天井の部位ごとの仕上げ材料特徴と施工について学ぶ。</p> <p>第29～30回 性能別材料 要求される性能で防水、防火、耐火、断熱、防音、吸音材料について学ぶ。</p>
教科書	図説 やさしい建築材料（学芸出版社）
成績評価方法	定期試験（80%）及び授業参加への積極性を重視する平常点（20%）により評価する
備考	

科目概要

学科名	建築・インテリアデザイン科		
科目コード	2020SD27		
授業科目名	施工		
授業時間数	36		
必修・選択の別	必修		
対象コース	共通		
開講年次	1年次	開講時期	中期
授業方法	講義		
実務経験のある教員による授業科目	該当する		

シラバス

授業内容	現場監督として勤務経験を有する教員が、建築工事着工前から完成に至るまでの工程全般に関して、基礎的知識や概要等を解説する。具体的には、施工計画の工程表作成方法や、材料管理・品質管理の考え方、各工事ごとの要点や種類・規定の詳細を図式やイラストを用いて理解を深める。さらに、コストの検討や測量方法、契約や仕様書の概要も解説し、建築工事全体の流れも講義する。
到達目標	設計図書に示された建築物の内容を正確に理解する。技術的な面における工法の基礎的知識や専門用語を修得する。また、測量方法や契約・仕様書の内容を理解し、読み取ることができる。
授業計画	<p>第1回 計画・管理・仮設 施工者が始めに準備する計画書・工程表・申請書・予算書等の内容を説明、考慮事項を学習する</p> <p>第2回 土工事・地業・基礎 地盤調査の方法から地盤改良・杭工法の分類及び地業の種類などを学習する</p> <p>第3回 鉄筋・型枠 鉄筋の圧縮・引張の関係性や、定着・継手種類の理解、また型枠施工条件や材料の特徴、組立加工を学習する</p> <p>第4回 コンクリートⅠ コンクリートの各種混和材料の特徴や質重比の決まり、強度係数やスランプ値の基礎を学習する</p> <p>第5回 コンクリートⅡ 生コンの指定事項や打ち込み前確認事項を説明し、打込・締固め・打継ぎ・養生のポイントを学習する</p> <p>第6回 鉄骨・組積 鉄骨材の品質規格や断面形状・寸法の種類を理解し、組積工事の構法・規定寸法などを学習する</p> <p>第7回 木工事・防水 木材変形の特徴や継ぎ手・仕口の種類を説明、また防水工事の施工例を参照し施工手順・寸法を学習する</p> <p>第8回 左官・タイル・塗装 塗り材料の調査・混練・下地種類の内容を学習、またタイル貼り方の区別や塗装材料種類の特徴を学習する</p> <p>第9回 建具・ガラス・内装断熱 開口部の種類・材料・保管法を解説、ガラスの規格・性能や内装材の種別・材料特徴を学習する</p> <p>第10回 設備・金属屋根・用語器具 給排水の配管材や工事要点、屋根葺き種類と施工機械器具を図を参照しながら学習する</p> <p>第11回 積算・測量 主に測量の基礎となる地縄張りややりかたの方法、レベルやトランシットなどの測量方法を学習する</p> <p>第12回 契約・仕様・練習問題 契約書の種類や記載事項の内容を理解、請負方式の違いや入札・発注形態を学習する</p>
教科書	専門士課程 建築施工（学芸出版社）
成績評価方法	定期試験（80%）及び授業参加への積極性を重視する平常点（20%）により評価する。
備考	

科目概要

学科名	建築・インテリアデザイン科		
科目コード	2020SD29		
授業科目名	コーディネート演習 I		
授業時間数	36		
必修・選択の別	必修		
対象コース	共通		
開講年次	1年次	開講時期	前期
授業方法	演習		
実務経験のある教員による授業科目	該当する		

シラバス

授業内容	住宅メーカーでコーディネーターとして勤務経験を有する教員が、インテリアコーディネートの基礎を解説しながらコーディネートボード作成の実習を指導する。具体的には、インテリア構成要素の分析方法を学習し、実習として空間イメージボード・抽象イメージボード・外観イメージボードの作成を行う。最後に、自室空間のリフォーム提案の課題を通し、空間寸法の読み取り方や平面図作成の基本修得、イメージを他者に伝える為のボード作成方法を学習する。
到達目標	インテリア空間を構成する4要素【カラー・フォルム・マテリアル・テクスチャー】の分析ができる。また、居室空間の基本寸法を理解し平面図作成の基礎を身につける。相手に提案内容の魅力が伝わるような作品ボードの構成ができ、コンセプトが明確に伝わるようなプレゼンテーションができる。
授業計画	<p>第1回 インテリアコーディネートの基本 インテリアコーディネーターの具体的な業務内容の解説、空間構成の重要な4要素の分析方法を学習する</p> <p>第2回 抽象イメージボード作成 抽象テーマに沿ったイメージ画像の収集、選別、用紙のレイアウトバランス、貼付作業の基礎を学ぶ</p> <p>第3回 インテリアイメージボード作成 テーマを内装空間に絞り、インテリア空間をより明確に表現するイメージボードの作成方法を学習する</p> <p>第4回 外観イメージボード作成 建築物の外観に焦点を当て、特徴を捉え統一感のある外観イメージボードの作成方法を学習する</p> <p>第5回 自室空間リフォーム 自室のリフォームプランを取り組むに当たり、採寸方法説明、躯体や開口部の基礎理解、案出しを行う</p> <p>第6回 平面図作成 採寸してきた自室寸法を基にして、手描きの平面図作成作業を行う</p> <p>第7回 リフォーム案検討 どのようにリフォームするのか具体的な家具寸法などを参考にしてレイアウトし、いくつかの案を検討する</p> <p>第8回 フォーム案作図作業 決定したリフォーム案を実際に平面図への落とし込み作業を行う</p> <p>第9回 平面図着彩 完成した平面図を、わかりやすくする為に家具やエレメント、躯体や開口部の着彩作業を行う</p> <p>第10回 ボードレイアウト 平面図・イメージ空間画像などをバランスを確認しながら用紙へ貼付し、テーマコンセプトを記載する</p> <p>第11回 作品プレゼン及び解説 今までの作品を、コンセプトや工夫点などを説明しながら1人ずつプレゼンテーション及び講評を行う</p> <p>第12回 ボードの考察 現場のインテリアコーディネーターが実際に作成した提案ボードや建築家のイメージボードを考察し、レイアウト構成のポイントやエレメントを伝える表現方法、色彩の使い方などを学習する</p>
教科書	特に指定しない
成績評価方法	各演習作品評価点（80%）及び授業参加への積極性を重視する平常点（20%）により評価する。
備考	

科目概要

学科名	建築・インテリアデザイン科		
科目コード	2020SD39		
授業科目名	建築設備		
授業時間数	36		
必修・選択の別	必修		
対象コース	共通		
開講年次	2年次	開講時期	前期
授業方法	講義		
実務経験のある教員による授業科目	該当する		

シラバス

授業内容	設備設計事務所での勤務実績がある者が、その経験を生かし建築設備（給排水・冷暖房・換気・電気・防災）の基本的知識の理解を目標にし、建築物における設備の重要性を説く
到達目標	建築物の設備を設計したり、工事を行う上で理解しておかなければならない設備の基礎的な知識を身につける。又、生活の中で設備を理解し、生活の向上の為にも役立てる。
授業計画	<p>第1回 建物における設備の位置づけと設備の歴史を学ぶ</p> <p>第2回 室内環境と熱負荷を理解し、冷暖房能力の算定を学ぶ</p> <p>第3回 熱量計算と湿り空気線図の読み方を学ぶ</p> <p>第4回 空気調和方式と冷凍のしくみを学ぶ</p> <p>第5回 ダクト・配管・ポンプの決定方法と揚程計算を学ぶ</p> <p>第6回 換気方式と換気量の求め方を学ぶ</p> <p>第7回 給水・排水・給湯設備の水量算出方法を学ぶ</p> <p>第8回 衛生器具・消火設備の種類を学ぶ</p> <p>第9回 電気設備の概要・電力・受変電を学ぶ</p> <p>第10回 照明器具・防災器具・通信情報設備の種類と運用方法を学ぶ</p> <p>第11～12回 設備設計図の作図方法を学ぶ</p>
教科書	学芸出版社「初めての建築設備」
成績評価方法	定期試験（80%）及び授業参加への積極性を重視する平常点（20%）により評価する。
備考	

科目概要

学科名	建築・インテリアデザイン科		
科目コード	2020SD11		
授業科目名	設計製図演習		
授業時間数	108		
必修・選択の別	必修		
対象コース	共通		
開講年次	1年次	開講時期	前期・中期
授業方法	演習		
実務経験のある教員による授業科目	-		

シラバス

授業内容	建築設計に先立ち、製図用具の使い方から線の描き方等の基礎技術を修得する。建築設計製図の模写課題を通じ、実際に建築設計や現場で必要とされる建築設計製図の技術及び図面の読解力を修得する。
到達目標	建築製図法の基本、基本図の理解と徹底を行い、木造建築物、鉄筋コンクリート造の各図面の模写を通して設計図を正しく読む力及び正しく描く技術を養う。
授業計画	<p>第1回 製図用具の使い方・線種とその使い方</p> <p>第2～3回 木造住宅 配置図兼平面図</p> <p>第4回 木造住宅 1階床伏図</p> <p>第5回 木造住宅 小屋伏図</p> <p>第6～7回 木造住宅 矩計図</p> <p>第8回 木造住宅 断面図</p> <p>第9回 木造住宅 立面図</p> <p>第10～12回 木造住宅 平面詳細図</p> <p>第13～16回 RC造集合住宅 平面詳細図</p> <p>第17～20回 RC造集合住宅 断面詳細図</p> <p>第21～24回 RC造集合住宅 展開図</p>
教科書	新しい建築の製図(学芸出版社)
成績評価方法	各製図課題における作品評価点(70%)及び授業参加への積極性を重視する平常点(30%)により評価する。
備考	

科目概要

学科名	建築・インテリアデザイン科		
科目コード	2020SD13		
授業科目名	空間意匠論		
授業時間数	30		
必修・選択の別	必修		
対象コース	共通		
開講年次	1年次	開講時期	通年
授業方法	講義		
実務経験のある教員による授業科目	該当する		

シラバス

授業の内容	<p>大学や専門学校で建築設計を教えた経験を持ち、建築設計事務所などで意匠設計に携わった教員が、その見識や経験を活かしての講義をする。デザインは唯一の解答を持つものではなく、個々の持つ価値観・背景等が主観を構成し、それが社会と対話することにより生み出される。本講義では、これまで創られてきた建築・インテリア空間などを作者の考えと共に紹介し、学生に空間を構成しうる多様な価値観・概念を習得させることを目的とする。</p>
到達目標	<p>毎回テーマを設けて、建築・インテリア空間を紹介し、基礎的な知識を身につける。様々な要因でどんな作品が創られて来たかを学習し、実際の作品を考察していく。また、国内外の最近作を通して、現代建築意匠がどうあるべきか考えながら、最終的に自分達でコンセプトを重視したスケッチ作品を制作できるようにする。</p>
授業計画	<p>第1～2回 都市の中における建築の位置付けと使命          第3～4回 人と建築はどのような関係付けられるか？          第5～6回 建築は風土によりどのような影響を受けるか？          第7～10回 建築は自然とどのように付き合うべきか？          第11～14回 用途が建築意匠に与える影響          第15～17回 技術の進歩に伴う建築の変遷          第18～20回 材料の変化に伴う建築の変遷          第21～24回 建築の保存と再生          第25～27回 内部と外部の境界は何が決定するのか？          第28～30回 建築デザインとは何か？</p>
教科書	<p>特に指定なし。担当教員により必要に応じてプリントを配布する。</p>
成績評価方法	<p>テーマに沿った課題作品評価点（80%）及び授業参加への積極性を重視する平常点（20%）により評価する。</p>
備考	

科目概要

学科名	建築・インテリアデザイン科		
科目コード	2020SD14		
授業科目名	建築デザイン史		
授業時間数	30		
必修・選択の別	必修		
対象コース	共通		
開講年次	1年次	開講時期	通年
授業方法	講義		
実務経験のある教員による授業科目	該当する		

シラバス

授業の内容	<p>欧米の大学に留学経験があり、建築設計事務所で建築意匠に携わっている教員が、その見識や経験を活かした建築史の講義をする。建築設計上、意匠の占める要素は非常に大きいといえる。日本・西洋建築史で各時代背景とともに、国ごとの政治・経済・宗教・気候風土・生活様式等の違いと、建築技術や材料の変化の過程を学ぶことで、建築の創造の原点にあるそれぞれの価値観を習得する。</p>
到達目標	<p>各時代・国ごとに実際の建築・インテリア写真を通して考察し、その特徴を深く理解しながら、現代に至る建築意匠の変遷を理解する。日本・西洋建築史を通して得た知識を建築設計するときの意匠に関する基礎的な知識として応用できるようにする。</p>
授業計画	<p>西洋建築史</p> <p>第1～2回 古代オリエント・エジプト建築</p> <p>第3～4回 ギリシャ・ローマ建築</p> <p>第5～6回 ロマネスク・ゴシック建築</p> <p>第7～8回 ルネッサンス・バロック建築</p> <p>第9～10回 ロココ・リヴァイヴァル建築</p> <p>近代建築史</p> <p>第11～13回 世紀末建築から近代建築運動へ</p> <p>第14～16回 第二次世界大戦後の建築</p> <p>第17～18回 ポストモダニズムからデコンストラクションへ</p> <p>第19～20回 21世紀の現代デザインを考える</p> <p>日本建築史</p> <p>第21～23回 古代から中世へ；神社・仏教建築</p> <p>第24～25回 中世から近世へ；書院造・数寄屋建築</p> <p>第26～28回 明治・大正・昭和初期の建築</p> <p>第29～30回 第二次世界大戦後の日本建築の発展</p>
教科書	コンパクト版 建築史 日本・西洋 彰国社
成績評価方法	定期試験（80%）及び授業参加への積極性を重視する平常点（20%）により評価する。
備考	

科目概要

学科名	建築・インテリアデザイン科		
科目コード	2020SD15		
授業科目名	構造力学 I		
授業時間数	30		
必修・選択の別	必修		
対象コース	共通		
開講年次	1年次	開講時期	通年
授業方法	講義		
実務経験のある教員による授業科目	-		

シラバス

授業の内容	力学の概念、力のつりあい、力とモーメント、断面の性質などの基本的事項の習熟に重点を置き、建築物などにどのような力がかかっているのかを学習する。具体的には、荷重と反力、静定ラーメン、トラス構造、不静定構造に等について教科書に沿って解説し、基礎的な問題での演習を交えることで理解を深める。
到達目標	建築物を設計する上で理解しておかなければならない構造力学の基礎的な知識を身につける。また、反力、応力や部材の変形等についての理解を深め、基礎的な解法を修得する。
授業計画	第1回 構造力学に必要な算術計算 第2～4回 力の基礎 第5回 力の釣り合い 第6～9回 反力計算 第10～12回 部材に生じる力（基礎） 第13～16回 部材に生じる力（実践） 第17～18回 トラス 第19～20回 断面に関する数量 第21～26回 応力度 第27回 座屈 第28回 たわみ 第29回 不静定構造の基礎 第30回 塑性解析の基礎
教科書	図説やさしい構造力学（学芸出版社）
成績評価方法	定期試験（80%）及び授業参加への積極性を重視する平常点（20%）により評価する。
備考	

科目概要

学科名	建築・インテリアデザイン科		
科目コード	2020SD18		
授業科目名	色彩学		
授業時間数	12		
必修・選択の別	必修		
対象コース	共通		
開講年次	1年次	開講時期	前期
授業方法	講義		
実務経験のある教員による授業科目	-		

シラバス

授業内容	色彩についての基礎概念を理解し、色がどのような影響を与えるのか、その心理的な役割や効果、調和のとれた配色技法を修得する。また建築やインテリアだけに留まらず、ファッションやプロダクト、ビジュアルデザインやディスプレイデザインなど様々な分野での基本的な配色技法を修得する。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・色彩学の意義や色彩理論を理解し、配色技法及び色彩感覚を身に付ける。</li> <li>・色を伝える方法や心理効果、配色技法を学ぶことで建築環境の安全・美化・デザイン性への効果、建築空間イメージへの想定などを身に付ける。</li> </ul>
授業計画	<p>第1回 身の回りの色の見え方・光と色1 モノの見え方、色と光の性質の関係について学ぶ</p> <p>第2回 身の回りの色の見え方・光と色2 視覚系の構造と色について学ぶ</p> <p>第3回 身の回りの色の見え方・光と色3 照明光の性質と色の関係性について学ぶ</p> <p>第4回 色の表示 マンセル表式系についての色相環・HVC・色の表示方法・色立体について学ぶ</p> <p>第5回 色の表示 色名についてのJISの色名規格、系統色名について学ぶ</p> <p>第6回 色彩調和(調和・配色技法) 色彩調和、配色技法について学ぶ</p> <p>第7回 配色イメージ 色の三属性及びトーンと関係する配色イメージについて学ぶ</p> <p>第8回 ビジュアルデザインと色彩 ビジュアルデザインの領域について学ぶ</p> <p>第9回 ファッションと色彩 ファッション企画や配色、VMDと色彩の関係について学ぶ</p> <p>第10回 プロダクトと色彩 プロダクトデザインの領域、色彩の役割について学ぶ</p> <p>第11回 インテリアと色彩 住空間におけるインテリアの位置づけ、色彩の考え方、配色技法について学ぶ</p> <p>第12回 エクステリア環境と色彩 エクステリア環境の領域とエクステリア環境の色彩計画について学ぶ</p>
教科書	文部科学省後援 色彩検定 公式テキスト2級編
成績評価方法	定期試験（70%）及び授業参加への積極性を重視する平常点（30%）により評価する。
備考	

科目概要

学科名	建築・インテリアデザイン科		
科目コード	2020SD19		
授業科目名	色彩学演習		
授業時間数	24		
必修・選択の別	必修		
対象コース	共通		
開講年次	1年次	開講時期	前期
授業方法	演習		
実務経験のある教員による授業科目	-		

シラバス

授業内容	色彩学で修得した配色技法等を実践的な課題制作を通し体験的に学ぶ。 課題としてはインテリアパースやエクステリア、建築外観パース等に色彩計画をするなど、現場で必要とされる色彩についての知識や配色技法、また色彩感覚を養うものとする。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・色彩理論を理解し、実践的な課題制作での配色や色彩調和理論の活用方法を修得する。</li> <li>・様々な画材を使用し着彩を行うことで、幅広い表現技法を習得し、プレゼンテーションに役立つ技術を修得する。</li> </ul>
授業計画	第1回 視覚効果について（ポスターカラー使用）
	第2回 PCGS(色相とトーンによる色の表示方法)について（ポスターカラー使用）
	第3～4回 色彩調和について（ポスターカラー使用）
	第5～6回 インテリアパースの着彩（色鉛筆使用）
	第7～8回 戸建住宅外観・インテリアの色彩計画及び着彩（コピック使用）
	第9～10回 インテリアパースの色彩計画及び着彩（コピック・色鉛筆使用）
	第11～12回 エクステリア・外観パースの色彩計画及び着彩（コピック使用）
教科書	担当教員において配布資料制作
成績評価方法	各製図課題における作品評価点（70%）及び授業参加への積極性を重視する平常点（30%）により評価する。
備考	

科目概要

学科名	建築・インテリアデザイン科		
科目コード	2020SD20		
授業科目名	C A D 演習A		
授業時間数	144		
必修・選択の別	必修		
対象コース	共通		
開講年次	1年次	開講時期	前期・中期
授業方法	演習		
実務経験のある教員による授業科目	該当する		

シラバス

授業内容	建築設計業務においてCAD製図に携わった経験を持つ教員が、コンピュータの基本操作から、2次元汎用C A D (jwcad) を利用した実務的な建築製図に必要な知識や技術を指導する。
到達目標	コンピュータ操作に必要な知識を習得し、同時にトラブル等に対する対応力も高める。 C A D 製図に必要なコマンド操作を理解・修得し、作図中に最も適切なコマンド選択ができる能力を養う。縮尺に応じた表現、出力線種の選択・変更等を適切に行い、成果物提出までの一連の作業を理解・修得する。
授業計画	<p>第1回 コンピュータの概要、基本操作</p> <p>第2回 C A D の概要、基本操作 (U I、環境設定)</p> <p>第3～6回 基本操作 (基本コマンド)</p> <p>第7回 基本操作 (レイヤの概念、操作)</p> <p>第8～9回 基本操作 (ショートカット、クロックメニュー操作)</p> <p>第10～12回 小課題による作図 (建築CAD検定3級問題程度)</p> <p>第13回 R C 造平面図 (1/100)</p> <p>第14回 R C 造平面詳細図 (1/50)</p> <p>第15回 R C 造断面図 (1/100)</p> <p>第16回 R C 造立面図 (1/100)</p> <p>第17～18回 木造矩計図 (1/50)</p> <p>第19～20回 木造平面詳細図 (1/50)</p> <p>第21回 配置図 (1/100)、付近見取図 (1/300)</p> <p>第22～23回 パース、立体の作成</p> <p>第24回 日影図、天空図の作成</p>
教科書	JW_CAD建築製図 (学芸出版社)
成績評価方法	提出課題による評価 (70%)、授業参加への積極性を重視する平常点 (30%) により評価する。
備考	

科目概要

学科名	建築・インテリアデザイン科		
科目コード	2020SD21		
授業科目名	パースペクティブ演習		
授業時間数	36		
必修・選択の別	必修		
対象コース	共通		
開講年次	1年次	開講時期	中期
授業方法	演習		
実務経験のある教員による授業科目	-		

シラバス

授業内容	本講義は建築設計の分野では立体図形の把握と表現は非常に重要な基礎能力である。この演習では、各種投影図法についての講義と演習課題により透視図の制作方法を修得する。
到達目標	フリーハンド・スケッチなどに有効な簡略図法なども含め、実際の設計業務における検討やプレゼンテーションに役立つ技術を修得する。また与えられた平面図・立面図から立体図形として空間を立ち上げるなど、空間認識力を養う。
授業計画	<p>第1回 透視図の原理と用語・1消点基本図法</p> <p>第2回 1消点図法(室内)</p> <p>第3回 2消点基本図法</p> <p>第4回 2消点図法(建築外観)</p> <p>第5回 3消点基本図法</p> <p>第6回 3消点図法(建築鳥瞰)</p> <p>第7回 軸測投影法</p> <p>第8回 簡略1消点図法(室内)</p> <p>第9回 簡略2消点図法(K線法・建築外観)</p> <p>第10回 簡略2消点図法(相似法・建築外観)</p> <p>第11回 簡略3消点図法(建築外観)</p> <p>第12回 スケッチパースへの応用</p>
教科書	担当教員において配布資料制作
成績評価方法	各製図課題における作品評価点（70%）及び授業参加への積極性を重視する平常点（30%）により評価する。
備考	

科目概要

学科名	建築・インテリアデザイン科		
科目コード	2020SD22		
授業科目名	建築造形演習A		
授業時間数	72		
必修・選択の別	必修		
対象コース	共通		
開講年次	1年次	開講時期	前期・中期
授業方法	演習		
実務経験のある教員による授業科目	-		

シラバス

授業内容	造形に関わる基本的な考え方や工程、表現技法についての演習を行う。 着眼、発想を元にしたコンセプトワークにはじまり、エスキス、図面化から造形に至るプロセスを通じて、思考と美的造形の表現力を深める。
到達目標	建築意匠・建築設計の基礎として様々な表現技法を修得するとともに、美的表現の追求、多様性への理解を深める
授業計画	<p>第1-5回 [基礎造形]</p> <p>折紙建築を題材にして手道具の使い方や、素材・材料の特長を学ぶ 立方体の展開図を描き、その構成やパターンを検討する。 立方体を発展させ、より複雑でありながら展開図で表現、実現できる造形を追求する。 建築模型で用いられる材料に触れ、その特長を理解し、表現の可能性を追求する。</p> <p>第6-12回 [演習：フォーリー]</p> <p>フォーリーを取り上げ、用途に捉われない自由な造形の発見や発想を学ぶ コンセプトをまとめ、エスキスにてボリュームやスケールを検討する 模型の製作に必要な素材の選定、数量の拾い出しを行う 製作に並行してプレゼンボードの作成を行い、完成した模型と共にプレゼンテーションを行う</p> <p>第13-18回 [演習：住宅模型]□</p> <p>住宅の模型製作を通じて、図面の見方や空間・エレメントの構成を理解する 屋根の形状を検討し、外観に与える印象の考察や美観を追求する</p> <p>第19-24回 [演習：自由課題]</p> <p>製作作品の決定後、必要な資料を収集する スケールと表現方法・素材の選定を行い、自ら計画した製作スケジュールに沿って製作を行う</p>
教科書	担当教員において配布資料制作
成績評価方法	製作物(80%)及び授業参加への積極性を重視する平常点(20%)により評価する
備考	

科目概要

学科名	建築・インテリアデザイン科		
科目コード	2020SD23		
授業科目名	建築造形演習B		
授業時間数	18		
必修・選択の別	必修		
対象コース	共通		
開講年次	1年次	開講時期	後期
授業方法	演習		
実務経験のある教員による授業科目	-		

シラバス

授業内容	VectorWorksの基本操作を学び、3Dモデルの描画法、視点のシュミレーション等を修得する。椅子、本棚、ソファといった家具のモデリングを通じ、テクスチャの貼り方、レンダリング法など3Dモデルの技術を修得する。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 3Dモデルの基礎的な知識を修得する。</li> <li>・ 視点の切り替え方法やパースに応じたアングルの設定方法を修得する。</li> <li>・ 3Dモデルを画面上に立ち上げ、様々なアングルで立体の検討を行なう力を養う。</li> </ul>
授業計画	第1～2回 3Dの基本操作の説明 第3回 3Dモデリング演習 (3次元図形描画の基本) 第4回 3Dモデリング演習 (テクスチャの貼りつけ、レンダリング方法) 第5回 3Dモデリング演習 (曲線を用いたモデリング方法) 第6回 3Dモデリング演習 (3Dシンボル登録と編集)
教科書	担当教員において配布資料制作
成績評価方法	各製図課題における作品評価点 (70%) 及び授業参加への積極性を重視する平常点 (30%) により評価する。
備考	

科目概要

学科名	建築・インテリアデザイン科		
科目コード	2020SD24		
授業科目名	空間演習 I		
授業時間数	72		
必修・選択の別	必修		
対象コース	共通		
開講年次	1年次	開講時期	通年
授業方法	演習		
実務経験のある教員による授業科目	-		

シラバス

授業内容	地域の記憶や特徴、時間・季節の移り変わりなどを手掛かりとして、公共性の高い内部空間で訪問者がそれを感じることができるディスプレイを企画立案する。その後プレゼンテーションを行い、優秀作については実制作・展示を行う。授業前半で年間6回分の展示計画をたて、概ね2か月のスパンで制作展示を展開する。
到達目標	空間や時間のスケールによる様々な価値観の変化を理解できる。 展示空間の物理的特性を理解し、展示に必要な条件を設定できる。 ディスプレイの基礎知識を学び、企画から制作、その効果を理解できる。 積極的なコミュニケーションによるグループワークの有効性を理解できる。
授業計画	<p>第1回 課題説明、事例研究、資料収集 課題説明後、現地見学のうえ、事例や各種資料の収集、分析を行う</p> <p>第2～3回 テーマ、展示計画の検討 3名程度を1グループとして、ディスカッションによるテーマ、展示計画の検討を行う。</p> <p>第4～5回 プレゼンテーション資料作成 各グループで役割分担の上、平面図・立断面図・製作図・パース等プレゼンテーションに必要な資料を作成する</p> <p>第6回 プレゼンテーション・講評 各グループごとにプレゼンテーションを行い、討議後実作6作品を決定する。</p> <p>第7回 1期制作・設置</p> <p>第8回 2期制作・設置</p> <p>第9回 3期制作・設置</p> <p>第10回 4期制作・設置</p> <p>第11回 5期制作・設置</p> <p>第12回 6期制作・設置</p>
教科書	特になし。
成績評価方法	プレゼンテーション時作品点(50%)及び授業・制作参加への積極性を重視する平常点(50%)により評価する
備考	展示スペース図面は別途配布する



科目概要

学科名	建築・インテリアデザイン科		
科目コード	2020SD26		
授業科目名	グラフィック演習		
授業時間数	18		
必修・選択の別	必修		
対象コース	共通		
開講年次	1年次	開講時期	後期
授業方法	演習		
実務経験のある教員による授業科目	該当する		

シラバス

授業内容	<p>広告・看板等のグラフィックデザインの実務経験のある講師により、DTP(デスクトップパブリッシング)ソフトであるAdobe Illustrator・Photoshopにて実践的な基本操作を学び、作品集のまとめや最終課題である卒業制作でのプレゼン用ボードのレイアウトテクニックを修得します。</p>
到達目標	<p>実務において、クライアントへのプレゼンテーションに適した技術や手法などの基礎的な知識を身に付け、的確な企画・立案の技術を捉えるための力を養う。</p>
授業計画	<p>第1回 アプリケーションソフトウェアの操作(Illustrator・Photoshop)</p> <p>第2回 ロゴデザイン(アイデアスケッチ・CG制作)</p> <p>第3回 DTPの基礎知識とオペレーション技術(写真配置やテキストレイアウトの技術)</p> <p>第4回 DTPの基礎知識とオペレーション技術(建築図面のトレース・彩色の基礎技術)</p> <p>第5～6回 プロモーションアイテムの制作(素材作成、レイアウト)</p>
教科書	<p>担当教員において配布資料制作</p>
成績評価方法	<p>各課題における作品評価点(70%)、及び授業参加への積極性を重視する平常点(30%)により評価する。</p>
備考	

科目概要

学科名	建築・インテリアデザイン科		
科目コード	2020SD28		
授業科目名	デッサン		
授業時間数	90		
必修・選択の別	必修		
対象コース	共通		
開講年次	1年次	開講時期	通年
授業方法	演習		
実務経験のある教員による授業科目	-		

シラバス

授業内容	<p>実技デッサンを通して 正しく物体を認識し正しく描き写すことは非常に重要な基礎能力である。更にアドバンスして構成・造形・応用デッサンを習得することにより、単なるデッサンから「表現力」へと導くことである。</p>
到達目標	<p>この演習の最終的な目的は、身近にある様々な道具を使用して、フリーハンドのドローイングにより、「無形のイメージ（アイデア）」を「有形の形」へと導く過程を習得する。</p>
授業計画	<p>第1回 必要な道具の説明と建築におけるデッサンの必要性について</p> <p>第2回 校外授業・環境美術鑑賞</p> <p>第3回～6回 鉛筆の使い方と様々な線の表現</p> <p>第7回～8回 調子の表現方法</p> <p>第9回～10回 円と楕円</p> <p>第11回 比率</p> <p>第12回 隠れた形</p> <p>第13回～14回 遠近法</p> <p>第15回～16回 模様と文字</p> <p>第17回～19回 クロッキー表現</p> <p>第20回～23回 エスキース表現</p> <p>第24回～28回 建築デッサン</p> <p>第29回～30回 プレゼンテーション</p>
教科書	担当教員において配布資料制作
成績評価方法	各デッサン課題における作品評価点（80%）及び授業参加への積極性を重視する平常点（20%）により評価する。
備考	

科目概要

学科名	建築・インテリアデザイン科		
科目コード	2020SD30		
授業科目名	家具デザイン演習		
授業時間数	36		
必修・選択の別	必修		
対象コース	共通		
開講年次	1年次	開講時期	後期
授業方法	演習		
実務経験のある教員による授業科目	該当する		

シラバス

授業内容	大川産地の家具デザイン及び制作指導の経験を有する教員が住空間に内包される場所の構成要素（インテリア・エレメント）の計画・設計をする領域の家具デザインにおける基本的な形態や材料・構造・人間と道具・空間とのかかわり方、人間の行為行動のサポートのために生まれてきた家具を「より快適に」「楽に」「無駄なく」などの要素を人間工学などで考察し、インテリアの基礎知識を基盤とし、デザインを現実化するための製図やパースの表現方法をまなび、体に優しいデザインについて考える方法論や演習を行う。
到達目標	住空間の問題点を3不（不満・不思議・不安）で抽出し空間やモノのあり方、解決策を考えて、インテリアのビルトイン家具や特注家具、取り付け家具などのアイデアをまとめ、インテリアの基礎知識を基盤とし、豊かな発想力と、機能性を融合させたデザイン力や製図の表現力、プレゼンテーション能力の習得を目指します。
授業計画	<p>第1回 家具の分類（機能・形態別・素材）供給の仕方。デザインプロセス1 3不による問題点の抽出</p> <p>第2回 家具インテリア材料（木材・金具）家具構造。デザインプロセス2 あったらしいなあのもものづくり</p> <p>第3回 人間工学（体に優しいものづくり・考え方）。デザインプロセス2 あったらしいなあのもものづくり</p> <p>第4回 あったらしいなあのもものづくり デザインプロセス3 ラフスケッチから図面化</p> <p>第5回 家具製図（テーブル・箱物） コンピューター作業Vectorworksによる図面の書き方</p> <p>第6回 家具製図（造作家具・ビルトイン家具・作り付け家具） Vectorworksによる図面の書き方</p>
教科書	特に指定しない。【参考図書：家具デザインと製図（山海堂） 建築・室内・人間工学（鹿島出版会） インテリアデザイン事典（理工学社） 木のデザイン図鑑（建築知識）】
成績評価方法	テストの評価点（40%）、各製図課題におけるテスト評価点と作品評価点（50%）、出席点、授業や生活態度の評価（10%）で総合的に判断して評価する。
備考	

科目概要

学科名	建築・インテリアデザイン科		
科目コード	2020SD31		
授業科目名	総合デザイン論		
授業時間数	24		
必修・選択の別	必修		
対象コース	共通		
開講年次	1年次	開講時期	前期・中期
授業方法	講義		
実務経験のある教員による授業科目	-		

シラバス

授業内容	多岐に渡るデザイン分野の各専門知識や技術を、各専門分野の講師陣からオムニバス形式により具体的事例を専門家の考え方や手法を理解する。
到達目標	建築、インテリア、芸術、グラフィック、ファッション、インターネット、ディレクションなど各デザイン分野の専門知識を広く理解し、視野の広い発想力を養う。
授業計画	<p>第1回 栄養学について①自分の体をデザインしよう！</p> <p>第2回 広告写真について</p> <p>第3回 コミュニティデザインについて</p> <p>第4回 アートについて</p> <p>第5回 フォトコラージュについて</p> <p>第6回 スタイリングについて</p> <p>第7回 建築デザインについて</p> <p>第8回 アートディレクションについて</p> <p>第9回 彫刻について</p> <p>第10回 ファッションデザインについて</p> <p>第11回 第1回～10回までのレポート作成</p> <p>第12回 デザイン思考／アイデア出し、グループディスカッション</p> <p>第13回 デザイン思考／プレゼンテーション</p> <p>第14回 建築からプロダクトグラフィック多種に渡るデザインについて</p> <p>第15回 雑貨デザインについて</p> <p>第16回 商空間店舗デザインについて</p> <p>第17回 インテリアコーディネートについて</p> <p>第18回 Webデザインについて</p> <p>第19回 キャラクターデザインについて</p> <p>第20回 ファッションビジネスについて</p> <p>第21回 広告コピーについて</p> <p>第22回 栄養学について②食事とデザイン</p> <p>第23回 ファッションコーディネートについて</p> <p>第24回 第12回～23回までのレポート作成</p>
教科書	担当教員において配布資料作成
成績評価方法	受講レポート(70%)、及び授業参加への積極性を重視する平常点(30%)により評価する。
備考	

科目概要

学科名	建築・インテリアデザイン科		
科目コード	2020SD32		
授業科目名	ビジネスマナー		
授業時間数	6		
必修・選択の別	必修		
対象コース	共通		
開講年次	1年次	開講時期	後期
授業方法	講義		
実務経験のある教員による授業科目	該当する		

シラバス

授業内容	百貨店において、接客サービスに従事し、接客指導の実績のある教員が、社会人としての基礎力を指導する。第一印象から身だしなみ、正しい言葉遣いから、「話す」「聞く」等の表現を実践的に身に付け、公的な場面での好感もてるマナーやコミュニケーション力を修得する。
到達目標	基本的なビジネスマナーを学び、日々のコミュニケーションを向上し、社会人として円滑な人間関係を築くための基礎力を身に付ける。
授業計画	第1回 ビジネスマナーとコミュニケーション 第2回 基本動作と敬語について 第3回 話し方（声のトーン・表情） 傾聴力（態度、相槌、オウム返し） 第4回 電話応対について 第5回 名刺交換と紹介のマナー 第6回 面接対応（自己PR）
教科書	担当教員による配布資料作成
成績評価方法	テーマに沿った演習評価（70%）及び、授業参加への積極性を重視する平常点（30%）により評価する。
備考	

科目概要

学科名	建築・インテリアデザイン科		
科目コード	2020SD33		
授業科目名	建築設計A		
授業時間数	36		
必修・選択の別	必修		
対象コース	建築デザイン		
開講年次	1年次	開講時期	後期
授業方法	演習		
実務経験のある教員による授業科目	該当する		

シラバス

授業内容	建築設計業務の経験を持つ教員の指導により、独立住宅を設計課題とした演習を通して、「住」とは何か、何をもって「住宅」と呼ぶことができるのかを考察し、コンセプト立案から空間構成の検討、基本設計へと各々のフェーズを確認しながら建築設計全体の流れを学ぶ。
到達目標	既成概念に対して様々な問題提起を行い、エスキスを重ねることで建築家としての空間構想力を養う。設計行為を計画的に進め、プレゼンテーションに至るまでの工程を自己管理できる能力を習得する。建築の空間（平・立・断面）に対する簡単な提案ができる。設計意図を分かり易く説明するために必要な図面を描くことができる。
授業計画	<p>第1回 課題説明・資料収集・敷地環境等条件の整理</p> <p>第2回 エスキス1（コンセプト立案・ゾーニング）</p> <p>第3回 エスキス2（ボリュームスタディ・基本計画の策定）</p> <p>第4回 エスキス3（平面・立面・断面図(1/100)の検討）</p> <p>第5回 平面・立面・断面図(1/100)の作成</p> <p>第6回 プレゼンテーション・講評</p>
教科書	特に指定しないが、資料を配布する。
成績評価方法	提出課題(70%)、プレゼンテーション(10%) 授業参加への積極性を重視する平常点(20%)により評価する。
備考	

科目概要

学科名	建築・インテリアデザイン科		
科目コード	2020SD34		
授業科目名	住宅設計A		
授業時間数	36		
必修・選択の別	必修		
対象コース	インテリアコーディネート		
開講年次	1年次	開講時期	後期
授業方法	演習		
実務経験のある教員による授業科目	該当する		

シラバス

授業内容	住宅メーカーで設計業務の経験を有する教員が、住宅を設計課題とし演習を行う。具体的には延床25㎡の狭小平屋住宅の設計を課題とし、「住宅」という既成概念に対して様々な問題提起を行いながらエスキスを重ね空間構想力を養い、必要な各設計図書の製作を行う。		
到達目標	基本的な空間モジュールや人間の行動特性を理解した上で動線計画ができ、現場で要求される設計図書【平面図・立面図・断面図・配線図・透視図・仕様書】を基礎をおさえ作成することができる。また、課題製作を計画的に進め、プレゼンテーションに至るまでの工程を自己管理できる能力を習得する。		
授業計画	第1回	解説・条件設定・プランニング	
	第2回	プランニングエスキス	
	第3回	一般平面図（1/50）検討及び作成	
	第4回	立・断面図（1/50）検討及び作成	
	第5回	配線図・仕様書・透視図 検討及び作成	
	第6回	製図仕上・プレゼンテーション・講評	
	教科書	特に指定しない	
成績評価方法	演習作品評価点（80%）及び授業参加への積極性を重視する平常点（20%）により評価する。		
備考			



科目概要

学科名	建築・インテリアデザイン科		
科目コード	2020SD36		
授業科目名	家具設計A		
授業時間数	18		
必修・選択の別	必修		
対象コース	家具デザイン		
開講年次	1年次	開講時期	後期
授業方法	演習		
実務経験のある教員による授業科目	該当する		

シラバス

授業内容	大川産地の家具デザイン及び制作指導の経験を有する教員がアイデアスケッチから図面作成、モデル作成までのデザインプロセスを学び、材料特性や、構造力学による検証、コンピューターによりプレゼンボードを作成、企業に提案できるようなプレゼン能力を身に付ける。
到達目標	インテリアの基礎知識を基盤とし、豊かな想像力と、機能性を融合させたデザイン力やスケッチやパースなどの表現力、プレゼンテーション能力を身に付けインテリアデザイナーを目指す。
授業計画	<p>第1回 あったらしいなあと思う家具のデザイン設計-1 アイデアスケッチ</p> <p>第2回 あったらしいなあと思う家具のデザイン設計-2 (家具図面)</p> <p>第3回 あったらしいなあと思う家具のデザイン設計-3 (家具図面・部品図)</p> <p>第4回 あったらしいなあと思う家具のデザインモデル作成</p> <p>第5～6回 あったらしいなあと思う家具のデザインモデル作成 プレゼンボード作成</p>
教科書	特に指定しない。【参考図書：家具デザインと製図（山海堂） 建築・室内・人間工学（鹿島出版会） インテリアデザイン事典（理工学社） 木のデザイン図鑑（建築知識）】
成績評価方法	テストの評価点、各製図課題におけるテスト評価点と作品評価点、出席点、授業や生活態度の評価で総合的に判断して評価する。
備考	

科目概要

学科名	建築・インテリアデザイン科		
科目コード	2020SD37		
授業科目名	プロダクト設計A		
授業時間数	18		
必修・選択の別	必修		
対象コース	家具デザイン		
開講年次	1年次	開講時期	後期
授業方法	演習		
実務経験のある教員による授業科目	該当する		

シラバス

授業内容	家電メーカーでデザイン開発の実務経験のある教員が、その経験を活かして指導し、学生達は照明機器のテーマでプロダクト設計プロセスを習得する。 ①室内空間の照明条件の洗い出し、②条件に沿ってアイデア展開。 ③構造設計、材料選択、価格設定、販売方法などプロダクト設計の基礎を学ぶ。
到達目標	学生は時代考察や生活研究をベースに、新たな照明のアイデア発想を実践。 生活環境や光による空間演出などあらゆる角度から発想、課題解決策を設定。 アイデア展開、商品設計から市場導入まで習得し、論理的に説明できる能力を養う。
授業計画	第1回 オリエンテーション（照明の目的別種類と世界の著名な照明の学習） 第2回 三間原則（人間・時間・空間）に当てはめた条件分析 第3回 アイデア展開① 第4回 アイデア展開② 第5回 市場調査・既存商品分析（光源の選択） 第6回 アイデア具現化に向けた構造設計（JIS規格・LED照明の基礎学習） 第7回 インターフェース分析、安全性研究、照度検証 第8回 図面作成（電気構造） 第9回 図面作成（外観構造） 第10回 試作品作成（材料研究） 第11回 仕様書作成・量産化計画・市場導入策策定 第12回 プレゼンテーション 口頭表現力・自己分析力(客観視力)
教科書	特に指定しない【参考図書：「照明の基礎知識中級編」 一般社団法人照明学会出版 「新しい照明」 一般社団法人照明学会 照明普及分科会出版】
成績評価方法	照明作品評価点（80%）及び受講態度（20%）を総合的に判断して評価を行う。
備考	

科目概要

学科名	建築・インテリアデザイン科		
科目コード	2020SD40		
授業科目名	建築法規		
授業時間数	24		
必修・選択の別	必修		
対象コース	共通		
開講年次	2年次	開講時期	前期
授業方法	講義		
実務経験のある教員による授業科目	-		

シラバス

授業内容	建築基準法は社会情勢の変化等に応じて改正され、複雑化している。建築及び都市の計画、構造環境の全体像を把握するために、建築及び都市に関する法規や建築手法にわたる全般について修得する。
到達目標	建築物が設計から建設までの段階で様々な建築基準法の規定を受けているということを認識した上で、建築基準法令の読み方や解釈の仕方を身に付け、建築基準法の内容と趣旨を正確に理解するための力を修得する。
授業計画	<p>第1回 概要・建築基準法の基本定義</p> <p>第2回 建築基準法に関わる手続き、建築基準法の一部が適用されない建築物</p> <p>第3回 敷地・面積・高さについて</p> <p>第4回 採光・換気に関する基準</p> <p>第5回 構造・設備に関する基準</p> <p>第6回 都市計画区域・道路の定義・用途地域による建築制限</p> <p>第7回 面積・高さの制限</p> <p>第8回 防火地域・準防火地域の建築制限</p> <p>第9回 防火制限・内装制限</p> <p>第10回 避難施設</p> <p>第11回 構造強度・基準法のその他の規定</p> <p>第12回 その他の法律</p>
教科書	図説 やさしい建築法規(学芸出版社)
成績評価方法	定期試験(80%)及び授業参加への積極性を重視する平常点(20%)により評価する。
備考	

科目概要

学科名	建築・インテリアデザイン科		
科目コード	2020SD41		
授業科目名	CAD演習B		
授業時間数	108		
必修・選択の別	必修		
対象コース	共通		
開講年次	2年次	開講時期	前期・中期
授業方法	演習		
実務経験のある教員による授業科目	-		

シラバス

授業内容	VectorWorksを利用した2次元製図技法及び3Dモデリングの描画法を修得する。 視点のシュミレーション等を通じ、体感的に立体把握をするとともに、図面表現やシュミレーションを活用したプレゼンテーションにかかる技術までを目的とする。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題建築図面を読み取り、BIM(Building Information Modeling)対応の3Dモデリングを制作する技術を修得する。</li> <li>・1つのファイルで2Dと3Dの切り替えをスムーズに行えるハイブリッド構造をもった図面描画方法を修得する。</li> <li>・グラフィックソフト ( Illustrator) との連携の方法及び様々なレンダリング方法を駆使し、画像処理ソフト (photoshop) でレタッチを学び、よりリアルなレンダリング画像を制作する技術を修得する。</li> </ul>
授業計画	第1回 VectorWorksの基本操作 第2～3回 2D図面演習 (平面図 1/100) 第4～5回 2D図面演習 (立面図 1/100) 第6～7回 プレゼンテーションボード作成 第8～10回 2D図面演習 (平面図 1/50) 第11～13回 2D図面演習 (矩計図 1/30) 第14～15回 3Dモデリング演習 (シンボル家具) 第16回 3Dモデリング演習 (壁の立ち上げ方、開口部の入れ方) 第17回 3Dモデリング演習 (光源の入れ方、光の調整方法) 第18～19回 3Dモデリング演習 (ビューポートの活用方法) 第20～22回 3Dモデリング演習 (レンダリング種類の説明、応用) 第23～24回 3Dモデリング演習 (他ソフトと連携し、レンダリングパースの制作)
教科書	担当教員において配布資料制作
成績評価方法	各製図課題における作品評価点 (70%) 及び授業参加への積極性を重視する平常点 (30%) により評価する。
備考	

科目概要

学科名	建築・インテリアデザイン科		
科目コード	2020SD42		
授業科目名	空間演習Ⅱ		
授業時間数	96		
必修・選択の別	必修		
対象コース	共通		
開講年次	2年次	開講時期	前期
授業方法	演習		
実務経験のある教員による授業科目	-		

シラバス

授業内容	公共施設の展示スペースにおいて、設定されたクライアントの要望に沿ったディスプレイの企画立案を行う。授業当初に4~5人のグループを設定し、グループワークとして企画立案を行う。グループごとのプレゼンテーション後、実制作案を1案決定し、クラス全員で制作・設置を行う。
到達目標	ディスプレイとして、発信すべき情報の効果的な伝達手法を理解し、創意工夫できる。 展示空間の物理的特性を理解し、様々な技法を用いて空間を活用できる。 展示に有効な材料や制作法を選択でき、適切・丁寧な加工を行うことができる。 グループ・クラス内での自身の役割を理解し、積極的に制作に参加できる。
授業計画	第1回 制作概要説明・展示空間把握・事例研究 第2~3回 手法分析、表現方法の検討 第4~6回 アイデア検討・スケッチ 第7~8回 中間発表資料作成 第9回 中間発表・講評 第10~11回 修正作業 第12回 プレゼンテーション 第13回 制作工程検討・作業準備 第14~20回 実制作 第21~22回 設置
教科書	特になし
成績評価方法	プレゼンテーション時作品点(50%)及び授業・制作参加への積極性を重視する平常点(50%)により評価する
備考	展示スペース図面は別途配布する

科目概要

学科名	建築・インテリアデザイン科		
科目コード	2020SD43		
授業科目名	空間デザイン発想演習		
授業時間数	36		
必修・選択の別	必修		
対象コース	共通		
開講年次	2年次	開講時期	前期
授業方法	演習		
実務経験のある教員による授業科目	該当する		

シラバス

授業内容	家電メーカーでデザイン開発の実務経験のある教員が、その経験を活かして指導し、学生達はブレインストーミング法、KJ法の実習を通して修得する。 これらの発想手法を活用し、生活面に潜む多くの課題解決にアイデアを拡大。 斬新な解決手法をビジュアルにまとめ、第3者にプレゼンする。
到達目標	学生は時代考察や生活研究をベースに、アイデア発想手法を実践。 立場や職業の枠を超え、生活環境などあらゆる角度からの気づき、課題解決策を発想。 水平思考と垂直思考の両方を使い、デザインを通して論理的に説明する能力を養う。
授業計画	<p>第1回 アイデア発想概論（ブレインストーミング・KJ法・CL法他）</p> <p>第2回 ブレインストーミング演習 KJ法体験</p> <p>第3回 3問原則演習（人間・時間・空間）図式的アイデア考察思考演習</p> <p>第4回 多角的発想① 多様性（ダイバーシティ効果）</p> <p>第5回 多角的発想②（アイデア曼荼羅・視覚分析力）</p> <p>第6回 多角的発想③（水平思考+垂直思考）</p> <p>第7回 情報収集（生活研究・商品知識・市場分析）</p> <p>第8回 競合他社事例分析（相対性比較）</p> <p>第9回 仮説立案力の鍛錬（思考構築力）</p> <p>第10回 アイデアの整理・深堀り（素材・構造・想定価格・販売方法他）</p> <p>第11回 アイデアのまとめ、仕上げ（課題解決策）</p> <p>第12回 プレゼンテーション 口頭表現力・自己分析力（客観視力）</p>
教科書	特に指定しない。【参考図書：アイデア発想フレームワーク 堀公俊著（日経文庫）発想法 川喜田次郎著】
成績評価方法	アイデア作品評価点（80%）及び受講態度（20%）を総合的に判断して評価を行う。
備考	

科目概要

学科名	建築・インテリアデザイン科		
科目コード	2020SD44		
授業科目名	ビジネス概論		
授業時間数	12		
必修・選択の別	必修		
対象コース	共通		
開講年次	2年次	開講時期	前期
授業方法	講義		
実務経験のある教員による授業科目	該当する		

シラバス

授業内容	1、経営コンサルタントとしての実務経験のある教員が、企業や店舗において売上・利益を上げる基礎知識を身に着けるために学生に身近な各種業界における収益構造について事例を参考に教える。 2、マーケティング（販売促進）の実務経験のある教員が企業の販促活動や広告の手法など、将来、企画・提案のできるデザイナーになるために知っておくべき事項について教える。
到達目標	1、企業や店舗の売上・利益など収益構造の基礎的な知識を身に付ける 2、売り上げを上げるための手法やコストを削減するための手法を知識として身に付ける 3、マーケティング（販売促進）の様々な手法を身に付ける 4、商業広告について知り、デザインがどのように役に立つのかという知識を身につける 5、企業や店舗の経営者の考え方や実態を知り、就職活動に対応できるような知識を身に付ける
授業計画	第1回 導入・「もうけ」のカラクリ 第2回 集客と利益の増やし方 第3回 激安店、カフェ、価格のつけ方 第4回 輸出入、ネット、自動車業界の利益構造 第5回 旅行、飲食、ファッション業界の利益構造 第6回 小売、マッチングビジネス業界の利益構造 第7回 バーガー店、フリーペーパー他の利益構造 第8回 メガネ店、キーサービス店他の利益構造 第9回 エステ、テレショッピング他の利益構造 第10回 スポーツクラブ、カラオケ店他の利益構造 第11回 輸入雑貨、ハウスクリーニング他の利益構造 第12回 居酒屋・動物病院他の利益構造
教科書	担当教員において配布資料作成／講師参考資料：図解「お客には言えない儲けのカラクリ」永岡書店
成績評価方法	定期試験（80％）及び授業参加への積極性を重視する平常点（20％）により評価する。
備考	定期試験は100点満点の60点未満を再試験とする

科目概要

学科名	建築・インテリアデザイン科		
科目コード	2020SD45		
授業科目名	社会研究Ⅱ		
授業時間数	12		
必修・選択の別	必修		
対象コース	共通		
開講年次	2年次	開講時期	前期
授業方法	講義		
実務経験のある教員による授業科目	-		

シラバス

授業内容	将来の職業への関心を更に深め、働く事の意義や構造について学ぶと同時に、社会におけるコミュニケーションのあり方を修得し、意欲的な人生設計への実現に向けた選択行動が取れるようになる事を目的とする。
到達目標	自分の将来像を具体的にイメージできるようになる為に、職業観、将来設計能力を養い、人間力、社会人基礎力を身に付ける。
授業計画	第1回 働く意味について考える 第2回 筆記試験対策 第3回 面接対策 第4回 グループディスカッション対策（概要と選考方法） 第5回 グループディスカッション対策（実践と評価） 第6回 キャリアデザイン 第7回 ライフプランの作成 第8回 社会人に必要な基礎知識①（労働・賃金） 第9回 社会人に必要な基礎知識②（社会保険制度） 第10回 社会人に必要な基礎知識③（関係法令） 第11回 人間関係とコミュニケーション 第12回 キャリアデザインの評価
教科書	担当教員において配布資料作成 働く若者のハンドブック（熊本県雇用環境整備協会）
成績評価方法	定期試験（80%）及び授業参加への積極性を重視する平常点（20%）により評価する。
備考	

科目概要

学科名	建築・インテリアデザイン科		
科目コード	2020SD46		
授業科目名	卒業制作		
授業時間数	348		
必修・選択の別	必修		
対象コース	共通		
開講年次	2年次	開講時期	通年
授業方法	演習		
実務経験のある教員による授業科目	該当する		

シラバス

授業内容	<p>建築設計、施工及びインテリアコーディネーターなど空間デザイン分野の実務経験を持つ教員により学生各自が自由に設定したテーマに対し、これまで習得してきた建築やインテリアなどの空間デザイン領域に関する専門的な知識や技術、感性、表現等を使い、これからの社会への問題提起・解決に向けての提案を行っていく。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの建築やインテリアデザイン等の空間デザイン領域における歴史的背景や流れが理解でき、それを基に、これからあるべき空間デザイン領域の姿を思索し、自身の考えとして論ずることができる。</li> <li>・現代もしくは未来社会に対して空間デザイン領域からの問題提起を行うことができ、問題解決の為の具体的な提案を作成できる能力を習得する。</li> </ul>
授業計画	<p>前期（第1回～第12回）</p> <p>第1回～2回 卒業制作概要説明及び制作スケジュールの設定</p> <p>第3回～6回 事前調査・制作テーマの方向性の検討</p> <p>第7回～10回 本調査・制作テーマ・コンセプトの決定</p> <p>第11回～12回 敷地等諸条件の設定、計画概要書の作成</p> <p>中期（第13回～第72回）</p> <p>第13回 中間発表・講評</p> <p>第14回～52回 エスキス（スケッチ・模型等による検討）</p> <p>第53回～72回 プレゼンボード（図面・パース等）作成</p> <p>後期（第73回～第102回）</p> <p>第73回～100回 プレゼンボード（図面・パース等）作成</p> <p>第101～102回 プレゼンテーション・講評</p>
教科書	特に指定しない
成績評価方法	卒業制作における作品評価点(70%)、プレゼンテーション(10%)及び授業参加への積極性を重視する平常点(20%)により評価する。
備考	

科目概要

学科名	建築・インテリアデザイン科		
科目コード	2020SD47		
授業科目名	建築設計B		
授業時間数	108		
必修・選択の別	必修		
対象コース	建築デザイン		
開講年次	2年次	開講時期	前期・中期
授業方法	演習		
実務経験のある教員による授業科目	該当する		

シラバス

授業内容	建築設計業務の経験を持つ教員の指導により、比較的中規模集合住宅及び公共施設について各々課題を設定し演習を行う。建築計画が実際の設計でどのような役割を持っているのか実感し、また建築が地域や環境とどう結びついていかなければならないのかを考え、建築設計を行う者に必要な総合的な視野・知識・能力を養成する。
到達目標	建築計画Iで履修した内容を基に、各種建築物設計に必要な検討事項をリストアップし、設計条件として整理できる能力を身につける。複雑に絡み合う様々なプログラムを論理立てて整理し、秩序を持った空間提案ができる能力を身につける。高齢者等様々な人々の身体特性を理解し、建築が障害を作らぬよう配慮できる意識を身につける。建築と社会との関わりやその意義を理解する。
授業計画	<p>第1回 課題説明（集合住宅）・資料収集・敷地環境等条件の整理</p> <p>第2回 エスキス1（コンセプト立案・ゾーニング・配置計画）</p> <p>第3回 エスキス2（ボリュームスタディ・平面・立面・断面図の検討）</p> <p>第4回 エスキス3（ボリュームスタディ・平面・立面・断面図の検討）</p> <p>第5回 平面・立面・断面図・模型等必要表現のの作成</p> <p>第6回 プレゼンテーション・講評</p> <p>第7回 課題説明（高齢者福祉施設）・資料収集・敷地環境等条件の整理</p> <p>第8回 エスキス1（コンセプト立案・ゾーニング・配置計画）</p> <p>第9回 エスキス2（ボリュームスタディ・平面・立面・断面図の検討）</p> <p>第10回 エスキス3（ボリュームスタディ・平面・立面・断面図の検討）</p> <p>第11回 平面・立面・断面図・模型等必要表現のの作成</p> <p>第12回 プレゼンテーション・講評</p> <p>第13回 課題説明（美術館）・資料収集・敷地環境等条件の整理</p> <p>第14回 エスキス1（コンセプト立案・ゾーニング・配置計画）</p> <p>第15回 エスキス2（ボリュームスタディ・平面・立面・断面図の検討）</p> <p>第16回 エスキス3（ボリュームスタディ・平面・立面・断面図の検討）</p> <p>第17回 平面・立面・断面図・模型等必要表現のの作成</p> <p>第18回 プレゼンテーション・講評</p>
教科書	特に指定しないが、資料を配布する。
成績評価方法	提出課題(70%)、プレゼンテーション(10%) 授業参加への積極性を重視する平常点(20%)により評価する。
備考	

科目概要

学科名	建築・インテリアデザイン科		
科目コード	2020SD48		
授業科目名	構造力学Ⅱ		
授業時間数	36		
必修・選択の別	必修		
対象コース	建築デザイン		
開講年次	2年次	開講時期	前期
授業方法	講義		
実務経験のある教員による授業科目	-		

シラバス

授業内容	<p>構造力学Ⅰで学習した基礎的内容を踏まえ、さらに発展的な演習問題に取り組み建築物の構造計算の手順を学習する。具体的には、基礎的問題の確認を行いながら、それらを組み合わせで解かなければならない不静定構造物の応力の求め方、さらに建築物の二次設計が必要な場合に要求される必要保有水平耐力の係数の理解、塔状比を確認して建築物の転倒の検討を行う計算の流れなどを学習する。</p>
到達目標	<p>基礎知識を利用した不静定構造物の応力計算方法を修得する。また、偏心荷重を受ける部材の応力を求めるなどの応用問題の解法を身につける。構造計画と構造計算のプロセスの概要を理解する。</p>
授業計画	第1回 力のつりあい（復習）
	第2回 構造物の静定・不静定、静定構造物の反力
	第3～4回 静定構造物の応力
	第5～6回 断面の性質
	第7～8回 応力度
	第9～10回 不静定構造物の応力
	第11～12回 構造設計
教科書	<p>図解やさしい構造力学（学芸出版社）</p>
成績評価方法	<p>定期試験（80%）及び授業参加への積極性を重視する平常点（20%）により評価する。</p>
備考	

科目概要

学科名	建築・インテリアデザイン科		
科目コード	2020SD49		
授業科目名	建築計画Ⅱ		
授業時間数	36		
必修・選択の別	必修		
対象コース	建築デザイン		
開講年次	2年次	開講時期	中期
授業方法	演習		
実務経験のある教員による授業科目	-		

シラバス

授業内容	建築計画学において策定された要点の整理を行い、与えられた課題敷地に設定された用途の建築を設計計画する演習を行う。1ターム3回で構成し、4課題(木造住居系、RC造住居系、公共建築系、商業建築系)を課す。
到達目標	与えられた課題敷地に対し、必要条件を的確に整理し、建築計画Ⅰで修得した計画手法を理解し、基本計画することができる。
授業計画	第1回 木造住居系課題 (要点整理・設計方針策定) 第2回 木造住居系課題 (エスキス・基本計画) 第3回 木造住居系課題 (設計図制作) 第4回 RC造住居系課題 (要点整理・設計方針策定) 第5回 RC造住居系課題 (エスキス・基本計画) 第6回 RC造住居系課題 (設計図制作) 第7回 公共建築系課題 (要点整理・設計方針策定) 第8回 公共建築系課題 (要点整理・設計方針策定) 第9回 公共建築系課題 (設計図制作) 第10回 商業建築系課題 (要点整理・設計方針策定) 第11回 商業建築系課題 (エスキス・基本計画) 第12回 商業建築系課題 (設計図制作)
教科書	担当教員において配布資料制作
成績評価方法	各製図課題における作品評価点 (70%) 及び授業参加への積極性を重視する平常点 (30%) により評価する。
備考	

科目概要

学科名	建築・インテリアデザイン科		
科目コード	2020SD50		
授業科目名	建築環境工学		
授業時間数	36		
必修・選択の別	必修		
対象コース	建築デザイン		
開講年次	2年次	開講時期	中期
授業方法	講義		
実務経験のある教員による授業科目	該当する		

シラバス

授業内容	<p>建築設計事務所で環境工学の観点から設計に携わっている教員が、その見識や経験を活かしての講義をする。建築設計を進める際に必要な環境工学の要素である音・光・空気・温熱・水環境とそこで生活活動する人間の関りについて基礎概念を理解する。</p>
到達目標	<p>各单元ごとに基礎知識を習得した後にテストを行い、目標の達成度合いを確認する。特に熱環境と光環境については、熱移動の基本事項、温熱環境、日射・日照、採光、照明などについて説明し、建築物の室内および周辺環境を計画するための基礎知識を修得させる。</p>
授業計画	<p>第1回</p> <p>第2～ 3回 伝熱と結露</p> <p>第4～ 5回 換気と通風</p> <p>第6～ 7回 日射・日照と採光</p> <p>第8～ 9回 照明と色彩</p> <p>第10～11回 音環境</p> <p>第12回 都市環境</p>
教科書	初めての建築環境（学芸出版社）
成績評価方法	定期試験（80%）及び授業参加への積極性を重視する平常点（20%）により評価する。
備考	

科目概要

学科名	建築・インテリアデザイン科		
科目コード	2020SD51		
授業科目名	木構造計画演習		
授業時間数	36		
必修・選択の別	必修		
対象コース	建築デザイン		
開講年次	2年次	開講時期	前期
授業方法	演習		
実務経験のある教員による授業科目	該当する		

シラバス

授業内容	木構造を専門とする現役建築士が、設計業務に携わった実例プランを用いて、軸組配置の検討や接合金物選定等の実践的な演習の指導を行う。
到達目標	木構造の意匠と構造とのバランスを理解し、建築基準法に基づく耐力壁の配置や接合金物の選定についての知識・手法を習得する。
授業計画	第 1 回 [木質構法の特徴] 第 2-4 回 [耐力壁のバランス] 第 5-6 回 [地震力] 第 7-8 回 [風圧力] 第 9-10回 [軸組検討] 第11-12回 [金物検討]
教科書	[図解] 建築の構造と構法 <井上書院>
成績評価方法	課題<耐力壁のバランス・地震力・風圧力・金物選定>の検討成果と精度について採点(80%)及び授業参加への積極性を重視する平常点(20%)により評価する
備考	

科目概要

学科名	建築・インテリアデザイン科		
科目コード	2020SD52		
授業科目名	積算		
授業時間数	36		
必修・選択の別	必修		
対象コース	建築デザイン		
開講年次	2年次	開講時期	中期
授業方法	講義		
実務経験のある教員による授業科目	該当する		

シラバス

授業内容	住宅メーカーで積算業務に携わった経験を持つ教員が、建築数量積算基準に基づき設計例を用いて材料の算出方法及び値入れ業務の内容を講義する。具体的には、電卓を使用し、各工種ごとに設計図書を確認しながら材料拾い出し作業の手順を解説する。また、工種ごとの単位や単価の違いを理解し、利益算出方法や実行予算書といった実務的な内容も併せて学習する。		
到達目標	建築材料を各工種ごとに拾い出し作業ができる力を身につける。実行予算書の概要を理解し、利益率及び施主提示金額を算出をすることができる。また、工事費の構成及び工程別の積算の流れを理解する。		
授業計画	第1回	積算の種類	
	第2回	数量計算の流れ	
	第3回	実行予算書の理解・利益率計算	
	第4回	土工・地業の積算	
	第5回	鉄筋・型枠の積算	
	第6回	コンクリート数量の積算	
	第7回	鉄骨の積算	
	第8回	木造の積算	
	第9回	新建材の積算	
	第10回	左官・タイルの積算	
	第11回	塗装・建具の積算	
	第12回	板金・防水・雑工事の積算	
	教科書	初めての建築積算（学芸出版社）	
成績評価方法	定期試験（80%）及び授業参加への積極性を重視する平常点（20%）により評価する。		
備考			

科目概要

学科名	建築・インテリアデザイン科		
科目コード	2020SD53		
授業科目名	住宅設計B		
授業時間数	108		
必修・選択の別	必修		
対象コース	インテリアコーディネート		
開講年次	2年次	開講時期	前期・中期
授業方法	演習		
実務経験のある教員による授業科目	該当する		

シラバス

授業内容	住宅メーカーで設計業務の経験を有する教員が、住宅を設計課題とし演習の指導を行う。具体的には木造二階建住宅設計を主な課題とし、家族構成や敷地条件を設定し基本計画・基本設計から実施設計へと段階を踏みながら設計を進め、最終的にはインテリアコーディネーションと規定の家具設計までを含めた実施設計図書の作成を行う。また、RCマンションの住宅改装や住宅LDKのリフォームの課題も取り組み、設定した躯体内を変更計画・設計する要領も学習する。
到達目標	設計者として必要な法的知識・意匠を考慮し、段階的に詳細で正確な実施設計図書一式【配置図・平面図・立面図・断面図・展開図及び造作家具詳細図・透視図・配線図・仕様書】を作成することができる。また、明確なコンセプトの設定を行い、施主へのプレゼンテーションやヒヤリングの能力を修得する。
授業計画	<p>第1～2回 【木造二階建住宅設計】仕様テーマ決定・プランニングエスキス</p> <p>第3～4回 【木造二階建住宅設計】基本計画 エスキス及び検討</p> <p>第5～6回 【木造二階建住宅設計】基本計画～設計製図 &lt;平面図・立面図・断面図(1/100)&gt;</p> <p>第7～8回 【木造二階建住宅設計】実施設計 &lt;断面詳細図(1/50)・配線図(1/100)&gt;</p> <p>第9～10回 【木造二階建住宅設計】仕様書・展開図・造作家具詳細図</p> <p>第11～12回 【木造二階建住宅設計】透視図作成・設計図書一式仕上げ</p> <p>第13～15回 【RCマンション住宅改装】平面図・断面図・透視図</p> <p>第16～17回 【住宅LDKリフォーム】平面図・展開図・透視図</p> <p>第18回 【プレゼンテーション・講評・修正】</p>
教科書	特に指定しない
成績評価方法	各演習作品評価点（80%）及び授業参加への積極性を重視する平常点（20%）により評価する。
備考	

科目概要

学科名	建築・インテリアデザイン科		
科目コード	2020SD54		
授業科目名	コーディネート演習Ⅱ		
授業時間数	36		
必修・選択の別	必修		
対象コース	インテリアコーディネート		
開講年次	2年次	開講時期	中期
授業方法	演習		
実務経験のある教員による授業科目	該当する		

シラバス

授業内容	建築設計事務所にて建築設計、インテリアコーディネートの経験をもつ教員が顧客の要望、ニーズに応え、イメージを実現すべくプランを立てるためのプレゼンテーションツールの技法を演習により修得する。
到達目標	インテリアコーディネーションにおいて、人が存在することを意識した住宅を一步進め、空間の使い方を見出しインテリアを考え、選択します。平面から立体へイメージの実現の為、プレゼンテーションに必要な知識と技術を修得する。
授業計画	<p>第1回 インテリアコーディネートとは？</p> <p>第2回 インテリアの構成要素（空間と物的要素）</p> <p>第3回 家具の種類 スケッチパース演習</p> <p>第4回 ファブリックス 質感、アクセント</p> <p>第5回 インテリアコーディネートのための色彩</p> <p>第6回 照明器具と配光性</p> <p>第7回 インテリアオーナメントとアクセサリー</p> <p>第8回 プレゼンテーションの種類・技法</p> <p>第9回 空間スケッチパース基本演習</p> <p>第10回 1・2消点透視図法 手描き図法</p> <p>第11回 プレゼンテーションボード作成</p> <p>第12回 プレゼンテーション・講評</p>
教科書	特に指定しない。【参考資料 やさしいインテリアコーディネート（学芸出版社）スケッチパースインテリア編（秀和システム）】
成績評価方法	各演習課題における作品評価点（80%）及び授業参加への積極性を重視する平常点（20%）を総合的に判断して行う
備考	

科目概要

学科名	建築・インテリアデザイン科		
科目コード	2020SD55		
授業科目名	コーディネート演習Ⅲ		
授業時間数	144		
必修・選択の別	必修		
対象コース	インテリアコーディネート		
開講年次	2年次	開講時期	前期・中期
授業方法	講義		
実務経験のある教員による授業科目	該当する		

シラバス

授業内容	環境や技術など急速に変化する社会を背景にインテリアコーディネーターの役割は重要になっています。建築設計、コーディネーターの実務経験から多様な生活空間のアドバイザーとしての必要な要素、知識を教科書にそい、現場経験を講義する。
到達目標	ライフスタイルの多様化、少子高齢化、地球環境、省エネルギーへの対応、安全、防犯など、住宅とそのインテリアに求められる社会的要求が高まる中、住まい手のニーズに応じて、生活の場としてのインテリア空間を適切にまとめ形づくるための知識や技術を理解、修得する。
授業計画	<p>第1回 インテリアコーディネーターの誕生とその仕事</p> <p>第2～5回 インテリアの歴史（日本・西洋）</p> <p>第6～9回 インテリアコーディネーションの計画</p> <p>第10～13回 生活場面の構成手法</p> <p>第18～22回 ファブリックス・インテリアオーナメント</p> <p>第23～24回 インテリアの構造、工法と仕上げ</p> <p>第25～28回 環境と設備 ショールーム見学</p> <p>第29～32回 法規・規格・制度 表現技法製図</p> <p>第33～36回 プレゼンテーション演習 基礎、平面図</p> <p>第37～40回 プレゼンテーション演習1 平面図・展開図</p> <p>第41～44回 プレゼンテーション演習2 平面図・パース</p> <p>第45～48回 プレゼンテーション演習3 平面図・家具図 着彩</p>
教科書	インテリアコーディネートハンドブック 統合版 上下（インテリア産業協会）
成績評価方法	定期試験（80%）及び授業参加への積極性を重視する平常点（20%）を総合的に判断して行う
備考	

科目概要

学科名	建築・インテリアデザイン科		
科目コード	2020SD56		
授業科目名	商業施設設計B		
授業時間数	108		
必修・選択の別	必修		
対象コース	商業空間デザイン		
開講年次	2年次	開講時期	前期・中期
授業方法	演習		
実務経験のある教員による授業科目	該当する		

シラバス

授業内容	商業デザイン設計事務所での実務経験のある教員が、その経験を生かして商業施設の計画、デザイン、設計について指導する。建築計画等で学んだ知識を元に、企画書を含む商業建築物の計画を行なう。現実の敷地を設定し、各学生が都市計画的な位置付けなどをもとに商業施設としての有効活用を考え、企画を策定した後、施設設計を行なうものとする。また、施設内の特定部分(テナント店舗など)を選択し内装設計まで行なうことで、商業施設における建築行為の仕組みを理解する。
到達目標	商業施設設計における建築行為の仕組みを理解し、内装設計製図に至る技能を習得する。また、商業施設建築についての考察力・企画力を養い、その内容の設計化、及びプレゼンテーションといった計画を具現化する能力の定着を謀る。
授業計画	<p>第1回 課題説明・資料収集・条件設定</p> <p>第2～5回 企画策定及び基本図作成(建築概要・平立断面図)</p> <p>第6回 企画図書提出 プレゼンテーション・講評</p> <p>第7～12回 実施設計図書の検討・作成</p> <p>第13～15回 内装設計図面の検討・作成</p> <p>第16～17回 各設計図書の整合・修正及び透視図作成</p> <p>第18回 最終プレゼンテーション・講評</p>
教科書	特に指定しない
成績評価方法	各課題における作品評価点(70%)及び授業参加への積極性を重視する平常点(30%)により評価する。
備考	

科目概要

学科名	建築・インテリアデザイン科		
科目コード	2020SD57		
授業科目名	コーディネート演習Ⅱ		
授業時間数	36		
必修・選択の別	必修		
対象コース	商業空間デザイン		
開講年次	2年次	開講時期	中期
授業方法	演習		
実務経験のある教員による授業科目	該当する		

シラバス

授業内容	建築設計事務所にて建築設計、インテリアコーディネートの経験をもつ教員が顧客の要望、ニーズに応え、イメージを実現すべくプランを立てるためのプレゼンテーションツールの技法を演習により修得する。
到達目標	インテリアコーディネーションにおいて、人が存在することを意識した住宅を一步進め、空間の使い方を見出しインテリアを考え、選択します。平面から立体へイメージの実現の為、プレゼンテーションに必要な知識と技術を修得する。
授業計画	<p>第1回 インテリアコーディネートとは？</p> <p>第2回 インテリアの構成要素（空間と物的要素）</p> <p>第3回 家具の種類 スケッチパース演習</p> <p>第4回 ファブリックス 質感、アクセント</p> <p>第5回 インテリアコーディネートのための色彩</p> <p>第6回 照明器具と配光性</p> <p>第7回 インテリアオーナメントとアクセサリ</p> <p>第8回 プレゼンテーションの種類・技法</p> <p>第9回 空間スケッチパース基本演習</p> <p>第10回 1・2消点透視図法 手描き図法</p> <p>第11回 プレゼンテーションボード作成</p> <p>第12回 プレゼンテーション・講評</p>
教科書	特に指定しない。【参考資料 やさしいインテリアコーディネート（学芸出版社）スケッチパースインテリア編（秀和システム）】
成績評価方法	各演習課題における作品評価点（80%）及び授業参加への積極性を重視する平常点（20%）を総合的に判断して行う
備考	

科目概要

学科名	建築・インテリアデザイン科		
科目コード	2020SD58		
授業科目名	コーディネート演習Ⅲ		
授業時間数	144		
必修・選択の別	必修		
対象コース	商業空間デザイン		
開講年次	2年次	開講時期	前期・中期
授業方法	講義		
実務経験のある教員による授業科目	該当する		

シラバス

授業内容	環境や技術など急速に変化する社会を背景にインテリアコーディネーターの役割は重要になっています。建築設計、コーディネーターの実務経験から多様な生活空間のアドバイザーとしての必要な要素、知識を教科書にそい、現場経験を講義する。
到達目標	ライフスタイルの多様化、少子高齢化、地球環境、省エネルギーへの対応、安全、防犯など、住宅とそのインテリアに求められる社会的要求が高まる中、住まい手のニーズに応じて、生活の場としてのインテリア空間を適切にまとめ形づくるための知識や技術を理解、修得する。
授業計画	<p>第1回 インテリアコーディネーターの誕生とその仕事</p> <p>第2～5回 インテリアの歴史（日本・西洋）</p> <p>第6～9回 インテリアコーディネーションの計画</p> <p>第10～13回 生活場面の構成手法</p> <p>第18～22回 ファブリックス・インテリアオーナメント</p> <p>第23～24回 インテリアの構造、工法と仕上げ</p> <p>第25～28回 環境と設備 ショールーム見学</p> <p>第29～32回 法規・規格・制度 表現技法製図</p> <p>第33～36回 プレゼンテーション演習 基礎、平面図</p> <p>第37～40回 プレゼンテーション演習1 平面図・展開図</p> <p>第41～44回 プレゼンテーション演習2 平面図・パース</p> <p>第45～48回 プレゼンテーション演習3 平面図・家具図 着彩</p>
教科書	インテリアコーディネートハンドブック 統合版 上下（インテリア産業協会）
成績評価方法	定期試験（80%）及び授業参加への積極性を重視する平常点（20%）を総合的に判断して行う
備考	

科目概要

学科名	建築・インテリアデザイン科		
科目コード	2020SD59		
授業科目名	家具設計B		
授業時間数	54		
必修・選択の別	必修		
対象コース	家具デザイン		
開講年次	2年次	開講時期	前期・中期
授業方法	演習		
実務経験のある教員による授業科目	該当する		

シラバス

授業内容	大川産地の家具デザイン及び制作指導の経験を有する教員が家具雑貨の提案、企業コラボ企画を通してインテリアの基礎知識を基盤とし、豊かな想像力と機能性を融合させたデザイン力やスケッチやパースなどの表現力、プレゼンテーション能力を身に付ける。
到達目標	箱物や椅子のデザイン、人間工学、家具の材料、加工方法、家具の構造などの基礎知識を基盤とし、プロダクトデザインのプロセスであるラフスケッチから作図、展開図、部品図、立体としてビジュアルを判断する、模型製作を行い、試作、製品化までの作業工程を学び、企業に提案できるようなプレゼン能力を高める。
授業計画	<p>第1回 家具デザインについて デザインプロセスの3不による問題点の抽出</p> <p>第2回 産学協同開発の成果について 企業コラボ計画案</p> <p>第3回 産学共同開発企業訪問 家具雑貨の開発ヒアリング</p> <p>第4回 家具雑貨企画書のプランニング ラフスケッチ</p> <p>第5回 家具雑貨企画書のプランニング 「ペルソナ」情報設定の確認、ユーザー像の設定</p> <p>第6回 家具雑貨企画書作成</p> <p>第7回 企画書のプレゼン 企業訪問にて企画書のプレゼンを行う</p> <p>第8回 企画プラン提案の修正 「ペルソナ」情報設定の再検討、プランの修正</p> <p>第9回 企画書のチェック 模擬プレゼン 図面作成（三面図、展開図、部品図、パース）</p> <p>第10回 企画書作成（パース、図面作成、模型製作）</p> <p>第11回 企画書作成（パース、図面作成、模型製作）</p> <p>第12回 企画書作成（パース、図面作成、模型製作、金物などのチェック）</p> <p>第13回 企画書作成（部品・金物などのチェック） 模擬プレゼン</p> <p>第14回 企業コラボ中間プレゼンテーション 企業訪問にてプレゼンを行う</p> <p>第15回 企画修正（図面、部品、金物などのチェック）</p> <p>第16回 企画修正（図面、部品、金物などのチェック）</p> <p>第17回 企画書作成 「ペルソナ」の確認 模擬プレゼン</p> <p>第18回 最終企業コラボプレゼン 企業訪問にてプレゼンを行う</p>
教科書	特に指定しない。【参考：家具デザインと製図（山海堂） 建築・室内・人間工学（鹿島出版会）インテリアデザイン事典（理工学社） 木のデザイン図鑑（建築知識）】
成績評価方法	各製図課題における作品評価点とプレゼンの内容、出席点、授業や生活態度の評価で総合的に判断して評価する。
備考	

科目概要

学科名	建築・インテリアデザイン科		
科目コード	2020SD60		
授業科目名	コーディネート演習Ⅱ		
授業時間数	36		
必修・選択の別	必修		
対象コース	家具デザイン		
開講年次	2年次	開講時期	中期
授業方法	演習		
実務経験のある教員による授業科目	該当する		

シラバス

授業内容	建築設計事務所にて建築設計、インテリアコーディネートの経験をもつ教員が顧客の要望、ニーズに応え、イメージを実現すべくプランを立てるためのプレゼンテーションツールの技法を演習により修得する。
到達目標	インテリアコーディネーションにおいて、人が存在することを意識した住宅を一步進め、空間の使い方を見出しインテリアを考え、選択します。平面から立体へイメージの実現の為、プレゼンテーションに必要な知識と技術を修得する。
授業計画	<p>第1回 インテリアコーディネートとは？</p> <p>第2回 インテリアの構成要素（空間と物的要素）</p> <p>第3回 家具の種類 スケッチパース演習</p> <p>第4回 ファブリックス 質感、アクセント</p> <p>第5回 インテリアコーディネートのための色彩</p> <p>第6回 照明器具と配光性</p> <p>第7回 インテリアオーナメントとアクセサリ</p> <p>第8回 プレゼンテーションの種類・技法</p> <p>第9回 空間スケッチパース基本演習</p> <p>第10回 1・2消点透視図法 手描き図法</p> <p>第11回 プレゼンテーションボード作成</p> <p>第12回 プレゼンテーション・講評</p>
教科書	特に指定しない。【参考資料 やさしいインテリアコーディネート（学芸出版社）スケッチパースインテリア編（秀和システム）】
成績評価方法	各演習課題における作品評価点（80%）及び授業参加への積極性を重視する平常点（20%）を総合的に判断して行う
備考	

科目概要

学科名	建築・インテリアデザイン科		
科目コード	2020SD61		
授業科目名	コーディネート演習Ⅲ		
授業時間数	144		
必修・選択の別	必修		
対象コース	家具デザイン		
開講年次	2年次	開講時期	前期・中期
授業方法	講義		
実務経験のある教員による授業科目	該当する		

シラバス

授業内容	環境や技術など急速に変化する社会を背景にインテリアコーディネーターの役割は重要になっています。建築設計、コーディネーターの実務経験から多様な生活空間のアドバイザーとしての必要な要素、知識を教科書にそい、現場経験を講義する。
到達目標	ライフスタイルの多様化、少子高齢化、地球環境、省エネルギーへの対応、安全、防犯など、住宅とそのインテリアに求められる社会的要求が高まる中、住まい手のニーズに応じて、生活の場としてのインテリア空間を適切にまとめ形づくるための知識や技術を理解、修得する。
授業計画	<p>第1回 インテリアコーディネーターの誕生とその仕事</p> <p>第2～5回 インテリアの歴史（日本・西洋）</p> <p>第6～9回 インテリアコーディネーションの計画</p> <p>第10～13回 生活場面の構成手法</p> <p>第18～22回 ファブリックス・インテリアオーナメント</p> <p>第23～24回 インテリアの構造、工法と仕上げ</p> <p>第25～28回 環境と設備 ショールーム見学</p> <p>第29～32回 法規・規格・制度 表現技法製図</p> <p>第33～36回 プレゼンテーション演習 基礎、平面図</p> <p>第37～40回 プレゼンテーション演習1 平面図・展開図</p> <p>第41～44回 プレゼンテーション演習2 平面図・パース</p> <p>第45～48回 プレゼンテーション演習3 平面図・家具図 着彩</p>
教科書	インテリアコーディネートハンドブック 統合版 上下（インテリア産業協会）
成績評価方法	定期試験（80%）及び授業参加への積極性を重視する平常点（20%）を総合的に判断して行う
備考	

科目概要

学科名	建築・インテリアデザイン科		
科目コード	2020SD62		
授業科目名	プロダクト設計B		
授業時間数	54		
必修・選択の別	必修		
対象コース	家具デザイン		
開講年次	2年次	開講時期	前期・中期
授業方法	演習		
実務経験のある教員による授業科目	該当する		

シラバス

授業内容	家電メーカーでデザイン開発の実務経験のある教員が、その経験を活かして指導し、学生達は加湿器のテーマでプロダクト設計プロセスを習得する。 ①室内空間の空調条件の洗い出し、②条件に沿ってアイデア展開。③構造設計・材料選択・価格設定・販売方法などプロダクト設計の基礎を学ぶ。
到達目標	学生は時代考察や生活研究をベースに、新たな加湿器のアイデア発想を実践。 生活環境下での健康対策などあらゆる角度から発想、課題解決策を設定。 アイデア展開、商品設計から市場導入まで習得し、論理的に説明できる能力を養う。
授業計画	第1回 オリエンテーション（加湿器の目的別種類と世界の著名な商品の学習） 第2回 三間原則（人間・時間・空間）に当てはめた条件分析 第3回 市場調査・既存商品分析（4種の加湿方法の特徴研究） 第4回 アイデア展開① 第5回 アイデア展開② 第6回 アイデア具現化に向けた構造設計（JIS規格・空調設計の基礎学習） 第7回 インターフェース分析、安全性研究 第8回 図面作成（電気構造） 第9回 図面作成（外観構造） 第10回 試作品作成（材料研究） 第11回 仕様書作成・量産化計画・市場導入策策定 第12回 プレゼンテーション 口頭表現力・自己分析力(客観視力)
教科書	特に指定しない【参考図書：「気化式加湿器の性能評価」 田中英起著 公益社団法人空調衛生工学会出版】
成績評価方法	加湿器作品評価点（80%）及び受講態度（20%）を総合的に判断して評価を行う。
備考	